

Book Review

評者：石田千絵 日本赤十字看護大学看護学部

基本を学ぶ看護シリーズ5 健康づくりの仕組みを知る

監修：草間朋子・脊山洋右・松本純夫／発行：東京化学同人
定価：2750円（本体2500円＋税10%）



「地域に暮らすすべての人」を看護するために必要なすべてを1冊で

2022年4月の看護師教育の指定規則変更により、「在宅看護論」は「地域・在宅看護論」と名称が変更され、「統合分野」から「専門分野」となり講義の単位数も増え、低学年からすべての看護の基本として学ぶべき分野に位置づけられました。そして、看護の対象は、「在宅で療養をしている人」から、「地域に暮らすすべての人」と拡大されました。

「地域に暮らすすべての人」を看護するためには、個人のライフスタイルに注目しつつ、母子や高齢者などのライフサイクルによって異なる対象の課題や対策、プライマリヘルスケアの概念などを理解する必要があります。また、世界やわが国の健康にかかわる考え方や方針、わが国の資源と健康課題に対する国・行政の具体的な取り組みを認識したうえで、健康づくりの方策を理解する必要があります。

これまでの教育カリキュラムでは、これらを地域看護学や公衆衛生看護学概論・各論の一部として、一部の看護学生や公衆衛生を選択した学生や大学院生が学んできましたが、今後は、すべての看護学生が早い時期から学ぶことになったのです。しかし、その専門性の高さゆえに、現行の教科書のなかで健康にかかわる概念や地域看護学の概論に対応する教科書はあっても、公衆衛生看護学の各論の内容を含んで1冊にまとめられた教科書はありませんでした。

このようなわが国の背景のなかで、この『基本を学ぶ看護シリーズ5 健康づくりの仕組みを知る』が発行されました。「地域に暮らすすべての人」を看護するために必要なすべての項目を1冊で網羅しているだけでなく、人々の暮らしにかかわる環境にまで広く言及していますので、地域・在宅看護論の基本を学ぶために特化した画期的な教科書といえます。

他のシリーズと同様に図表や解説文が多く用いられていますので、看護学を学ぶ低学年の学生だけでなく、多様な分野の学習者にとっても役立つ工夫がなされています。具体的な活用方法について考えてみますと、本書は8章で構成されていますので、地域・在宅看護概論Ⅰ（8コマ1単位）などの科目で、ちょうど1章/回の授業で新たな配付資料を作成することなく、展開することができます。

保健・医療・福祉と健康にかかわる内容ですので、地域・在宅看護論だけでなく、さまざまな看護領域や保健・福祉領域の基本として、学生の授業前後の自己学習の図書としても使えると思います。また、多様な現場での勉強会などでは、臨床現場に沿った部分的な活用もでき、工夫次第でいかようにも用いることができる良書であるといえます。